

人



親 八  
餐 一

受信 〇〇五五五

了 〇六五〇 電 〇〇一三二

作

作

聯合艦隊口

東通・一掃・順 鐘

機密第三一二〇一五番電

發 南南方面艦隊參謀長

宛 聯合艦隊參謀長

通報大本營海軍參謀部第一部長・軍務總局長・第八艦隊參謀長・第四艦隊參謀長

現下ノ戰局ニ鑑ミ當方面トシテハ如何ナル困難ナル事情アルトモ聯合艦隊及中央ヲ煩ハス事ナク獨力戦力ノ自給ヲ計リ任務ノ達成ヲ期シツツアルモ六萬將兵ノ人學功績戰没者取極等ニ關シ現行諸法規ノ廣汎ナルト長官權限ノ縮小等ノ關係上電報處理不可能ナルモノ多量ニ稱シツツア

陸一七五五五 呂二Bラ十一一四九四五〇八通 海 軍

455

第十信

リ主トシテ是等書類就ニ暗読等ノ送達ノ必要上二三箇月ニ一回程度  
 其ニ對シ潛水艇便設定ヲ得度且且・F等間ハ差當リ當方面ニ飛行機  
 子保有シアル限り之ヲ改造シテ必須ナル重要文書類送達便ヲ設定致スベ  
 キニ付一般及中央トモ御協議ノ上右實行ヲ得度

第十信

海

軍

7  
寺

緊急

八一 受領一九三〇〇 丁二二〇 電〇〇六六五 時 時

● ダバオ第一航空基地

航 本

- 聯合艦隊口・六一航戦
- 大連第一航戦
- 航空本部・二三航戦
- 航空本部・二三航戦

機密第〇一〇一三三番電

三分ノ二

四所見

- (イ) 八月中旬迄ニ各隊共ニD組約半数ハD組トナル豫定ナルモ全力作戦可能トスルハ稍困難ナリ
  - (ロ) 作戦シツツ鍊成セシムルヲ以テ相當ノ消耗ヲ豫期セラル
  - (ハ) 三一一ハ降懸隊トシテ訓練中ニシテ八月中旬迄ニハ戦闘機トシテノ伎倆ハ不足ナリ
- 第二、一五三空

通三三六 呂二B(一五七一〇K)三二通

海 馬

第十部 第四

456

一〇二

(1) 伎倆組數換 A 六 B 四〇 三計一三 値 A 四 B 二〇 三計九

(2) 隊長ノ交代者ヲ要ス

(3) 以下士官兵二〇八名内地ニ居ル管ナルヲモ所在明確ナラズ

三九〇一

(4) 伎倆及組數 M D A 四 B 四計八外ニ操一名 P F A 一 (二)

B 一 (二) 〇 四 (一) 計六 (五)。

〔電信課駐 本電三分ノ一三既配布〕

第十信課

海軍

入

現  
物  
展  
示  
會

● 第一回 東京  
● 第二回 東京  
● 第三回 東京  
● 第四回 東京  
● 第五回 東京  
● 第六回 東京  
● 第七回 東京  
● 第八回 東京  
● 第九回 東京  
● 第十回 東京

● 聯合展覽會  
● 東京一會展覽會

● 大正十一年  
● 大正十二年  
● 大正十三年  
● 大正十四年  
● 大正十五年  
● 大正十六年  
● 大正十七年  
● 大正十八年  
● 大正十九年  
● 大正二十年

● 第一回 東京  
● 第二回 東京  
● 第三回 東京  
● 第四回 東京  
● 第五回 東京  
● 第六回 東京  
● 第七回 東京  
● 第八回 東京  
● 第九回 東京  
● 第十回 東京

● 第一回  
● 第二回  
● 第三回

● 第一回  
● 第二回  
● 第三回

● 第一回  
● 第二回  
● 第三回

● 第一回 東京  
● 第二回 東京  
● 第三回 東京  
● 第四回 東京  
● 第五回 東京  
● 第六回 東京  
● 第七回 東京  
● 第八回 東京  
● 第九回 東京  
● 第十回 東京

● 第一回  
● 第二回  
● 第三回

● 第一回 東京  
● 第二回 東京  
● 第三回 東京  
● 第四回 東京  
● 第五回 東京  
● 第六回 東京  
● 第七回 東京  
● 第八回 東京  
● 第九回 東京  
● 第十回 東京

第十回 東京

457

東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會  
東京一會展覽會

三一、計一、二、三

八月月中旬迄三月迄ナク外二病人銀一名計一分監士一三名  
出テ要ス 從ツテ四〇組ヲ百銀ナクハ採、偵査五名續充テ要

又

付置機身監士等不足ニ付有補充ノ限ハ補給者ナクニテテ補給ス  
付外監査二名養護三付一名採テ交代ナリトス

三、監 査

付置機身監査

付置機身 A〇、B六、C六、D三、計一五

偵 査 A二、B三、C二、D三、計一〇

監 査 A〇、B六、C一、D三、計一〇

付置機身、偵一四、監一三

付置機身、偵八、監一

第十課課

海 軍

第十信課

(4) 在F下及未委任者多數ノ爲編制不可能

(5) 差替ノ職死者ノ補充トシテ左記要員ハ

(1) 陸軍少佐二名 下士官兵五名

(2) 陸軍少佐三名

(3) 陸軍上等飛行長官二名 下士官兵九名

(4) 右不可能ナル場合ハ最小限五名補充シ未委任者ヲ確保維持ス

(5) 一五組編制ノ要アリ

第四、所 見

一、内地航空者ヲ除キ陸軍航空中隊編隊者ヲ以テ編隊ニ決定スルヲ以

テ第二航空艦隊ニ第三航空艦隊編定者ヲ以テ運送スルノ外運送者ヲ

シ

二、敵機直後ナルヲ以テ現在作戦行動困難ナルヲ以テ一基隊編隊者ナルヲ

以テ以テスル小作戦ヲ實施セザルハ八月中旬迄ノ再編成困難ナル

海 軍

才要ハ二旬ノ間達成ニ専念セシムルニ在リ

三時ニ強体ナル状態ニ對シテハ補充ヲ要ス

四夜戦ノ戦價ニ對シテハ七五四就空隊編組種アリ養成スルヲ可ト

ス其ノ編組總ノ陸攻ヨ、日組ヲ以テ東南以對潛警戒ヲ擔任セシ

ムレバ實動困難ノ編組機ニ代ル事ハ容易ナリ

五時下着準備ノ空輸ハ夜間行動ニ依リサレバ相當困難ナルヲ以テ

夜間優秀ナル飛行態ニ依リ夜間空輸ノ要アリ 艦艇ニ不安アル

ノ外下着準備ノ移動順序ニ行ハルル場合ハ再編可能ナルモノ

ト思フ

第十信課

海軍





八三  
急展

四三  
開始一九三〇七

了四六三〇 電一四八八

航作本

● 重

通

● 大才第一航空基地

機密

機密第一〇二一八〇〇番電

第一航空艦隊

航空本部總務部

通報 大本營海軍參謀部第一部長

● 急展 漸次緊迫シ訓練ニ充分ナル期間ヲ期待シ雖キ今日練度低キ現  
搭乗員ヲ以テスル敵艦艇攻撃ニハ全面的反跳艦艇ヲ採用シ適當ト認  
ム特ニ陸軍航空部隊ニ對シテハ本艦艇法採用ノ要アリト思考スルヲ  
以テ左ノ件特ニ急速實施方取計ハレ度

通一五一七 口二八一五七一〇 三二通

海軍

第十信課

459

一 反隊爆撃用信管五〇〇個急造ノコト  
 二 現地所在爆撃ヲ反隊用ニ改造ノ方策  
 三 要スレバ右改造ノ技術指導員ノ派遣。

海軍

第十信課

局長  
課長  
局員

福

東

赤

第十信課

親展

受領  
開始 一三三〇

了 一五〇〇  
電 〇一五〇七

多作  
本

● 第一海上護衛隊マニラ方面了

● 南四方面陸隊第三移動通信隊

一 通報表示 一 東京第一、二二通第二放送通信隊名符・松風

極秘

機密第〇二一八五五番電

發 報參謀長

短轉電第四〇六號 勢戰參電第一二三號

第九艦隊板橋參謀ハ荒天ノ偽サルニ到着シ終三六師團ノ下ニアリ  
據薩長官ノ消息不明ナリ尙詳細ハ電報到刻ニ從ヒ通報ス。

第一三七二 日一五八一四九三〇(四)三一編

海軍

460

八

親展

作

聯合艦隊參謀長

發 聯合艦隊參謀長

通報 軍務局 大本營海軍部戰力補給部

南西方面防備強化、就中菲島、濠北方面ノ緊急防備強化ノ爲貴方面

所在物資ニシテ利用シ得ルモノヲ悉テ（政務部關係ノモノヲ含ム）之

ヲ活用ノ要アルニ就テハ此ノ際各艦隊、各地、各廳毎ニ更メテ詳細

其ノ有無ヲ調査、物資ハ貴司令部ニ於テ一元的ニ統制シテ重點ニ分

通 一〇八四 呂三A B C P

局長	第一課長	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P

南西方面艦隊 東京海軍通信隊

機密 第〇二一九〇九番電 二分ノ二

兵作 備 艦政 戰力 航本

fb1

配スルヲ適當ト認メラルルニ付至急研究實現ヲ得度  
 現地所産戰力物資中兵器、砲藥、爆發物等ハ戰闘用ニ供シ得ルモノ  
 現地監隊長官ニテ適宜處理シ得ルコトニ中央了解濟  
 尙「マリアナ」ノ戰訓ニ鑑ミ防備築城ノ強化、現地軍人軍屬ノ全武  
 裝ノ實現ニ關シ中央ト折衝中ナルモ要望ノ資材兵器ヲ得ルコト困難  
 ナル實情ナリ  
 大立島ヨリ歸來者ヨリ仄聞スルニ「ボンチアオタ」ニ鹵獲小銃二五  
 〇〇〇、「タラカン」方面ニ「ダイナマイト」二四〇〇〇箱アリト  
 ノ話モアリ  
 右事實トモバ利用最適ノモノト認メアリ。

軍

人

THE NATIONAL SOCIETY OF THE 4-42  
1942

# 親展



暗號軍極秘

Vertical columns of Japanese text, likely a letter or official document, written in a formal style.

志通 (Shitō) and 王勇 (Ōyū) stamps

第十信線 (Jūjūshin Sen)

462

Vertical text on the left margin, possibly a date or reference number.







第一七六二 日三四月十二 日 興

海軍

八四 受信 一四〇〇 一七五〇 電〇一七五八 作



機動部隊 〇四一一一五番電

機動部隊電令作第二三三號二依ル 母艦航空部隊ノ作戰準備ニ關シ左ノ  
通改ム 第六六七號聯合艦隊電令作

- 一、應急出動艦千歲千代田一受命後一晝夜以内ニ出動可能ノコト
- 二、應急飛行隊第六五三空作戦可能全力一兵力編制ハ第三航空隊司令官所定トシ受命後三日以内ニ轉進又ハ出隊可能ノコト

第十信課

764







局長

局長

局長

福崎

津

三

海

三

第十信課

八五

受信一九四一  
開始二〇三〇

丁二一〇〇

三二九五

作

緊急

● 二 陸 隊 戸

● 一 六 隊 隊 戸 ・ 二 陸 支 隊 隊 戸

● 一 六 隊 隊 戸 ・ 二 陸 支 隊 隊 戸  
番号 〇 五 一 七 三 八 番 電

傍

● 南 西 方 面 陸 隊 隊 長

● 第 二 陸 隊 隊 長

近々第一六隊隊へ青龍尾終浦遊し及名取ヲ以テ其五ヨリ其ニ對スル  
緊急態勢ヲ實施セラルル豫定ノ處國領區延延ニ油被一變ニ過ギサル  
ヲ以テ新隊編成ニ便ノ協力ヲ得度ハ差支ナクレバ其五ヨリ一六隊隊  
ニ合同進出センメラレ度ハ貴重承知致度

通二六六三

四二日 四二タ十三 八八八四知 三十一 通海

軍

468

人

八六

受信二〇四〇五 丁二二四〇

電電〇〇二二七四九  
二二七六七八九

技研 電本

親展扱

東京通信隊

聯合艦隊司令部・一機動艦隊司令部・機名・第一〇連(四南)

暗號軍極秘

機密第〇六一三五五番電 三分ノ二二三

發 第二艦隊司令部

宛 次官 次長

通報 海軍本部長 電波本部長 技術研究所長 第一〇一工作部長

艦艇用二號二燈電測儀方ハ逐次製造兵器整備取救訓練良好ノモノハ大

運轉大巡二萬米以上ニ於テ作戦利用可能ノ機ニ到達水上部隊戰艦運轉

ニ光明ヲ備シツツアリ然ルニ電測全艦利用射撃及發射ノ實績ニ徴スル

海軍省 第三三八九 陸軍省(一七五九〇)十通

海 傳

469

電信課 第十課

モ電波探信機自体ノ方向測距精度ヨリモ之ヲ射撃盤其ノ他ニ導入スベ  
 キ方向距離測信機電磁ヲツバノ類取調自動車設置全期附屬諸装置ノ機械  
 的調整有リ是ニ大且不備ニシテ電測能力ヲ益幅射撃盤射ニ利用シ得ズ  
 測下水上部取調力ノ躍進ニ一大支障タリ  
 右ニ鑑ミ電波探信機自体能力精度ノ向上ハ更ニ望ム所ナルモ測下調整  
 ノ要事ハ附屬諸装置ノ改善ニアリ  
 佐世保工廠長既報ノ現用方位盤式通信装置一艦隊全般ニ對シ改裝且最  
 短期間ニ於テ實施可能ナル如ク關係職員工具急派一及リ装置ヲ日装置  
 ニ改裝ハ當方ノ最モ重視アル處ニ付キ機名同航時課急措置方取計ハレ  
 度尙旋回装置及追尾装置改善對策ハ右ニ既聯連ニ實現相成度

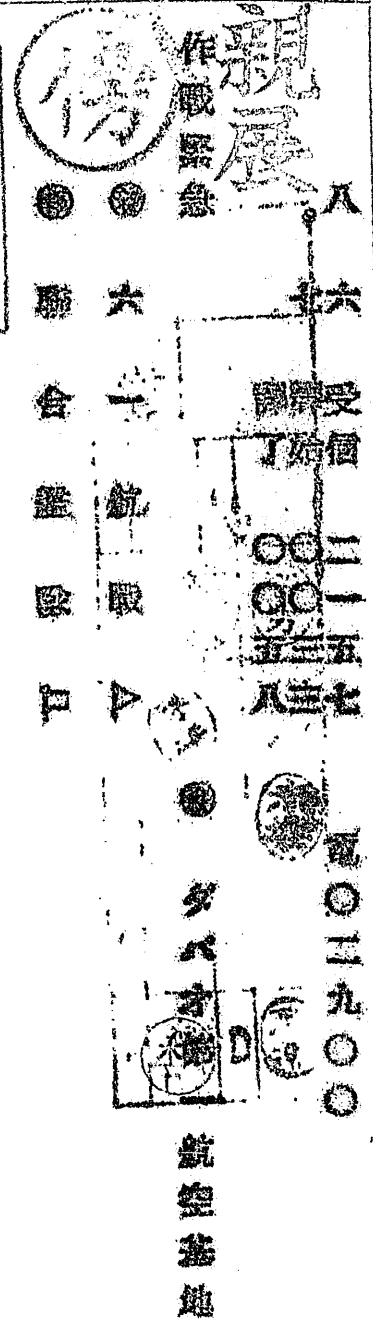
第十信保

海

電



人



機密軍機秘

機密第〇六一八三一番電

發 二十六航隊參謀

二〇一空實動兵力を〇機中派遣兵力在 P P P 一九機實動人乃至一〇機  
 在 P P 一 二機實動七機ニシテ更ニ兵力ヲ分派スルハ該隊ニ大ナル支障  
 ヲ生ズルモノト觀シラレド P 作戰方針ニモ鑑ミ P P P 兵力増派ノ件取  
 止ノコトトセラレ度。

通三四六一

呂二四一七八五五〇(廿二通)

海軍

電信課  
第十課





圖損耗防止對策ヲ結束ニ至ル迄滲透セシムルト共ニ範圍トシテ現狀ヲ把握シ強カナル損耗防止施策ヲ完成センガ爲此ノ上トモ海軍ノ護衛作戦ニ積極的ニ協力シツツ老練心ヲガラ左記條件實施相成度依命

一第七第十四方面軍 印度支那駐屯軍 第三第四航空軍ニ於テハ夫々護衛專任參謀(委員)ヲシテ常續的且嚴密ニ船團部隊及海軍ト連絡セシノ左記諸項ノ的確ナル實行ヲ期ス

一三分ノ二未着

二第三船團輸送隊

(一) 第一項船團警戒部高雄支隊ト密ニ連絡協同ス

(二) 船團要報ノ呈出(被擁護船團名陸海軍機哨戒狀況電波兵器使用效果及運用ニ關スル意見護送艦ノ報聞)

(三) 船團整備力ノ缺陷並ニ整備整備週轉ノ呈出

第101號

電信課

- (四) 將來ノ選航樞要系ニ應ズル港灣及積載ノ改變對策
- 三 前項諸報告ハ左記ニ據ルコトニ取計ハレ度
- (一) 護衛專任參謀ノ官氏名八日迄ニ電報
- (二) 船國護衛要報ハ其ノ都度狀態其ノ他要旨同報以上。

電信課  
駐  
本電再送ノ爲ニ  
未着

海軍

親筆  
八八  
作

暗號軍極秘

〇八  
受領一〇五二〇  
開始一五一五〇

丁一二〇〇  
電〇四二六二

參本

常電  
解

東通・~~海~~通(昭南)・一海上護衛隊

三一通(マニマ)

機密第〇七二三一二番電 三分ノ二

發 總參謀長

威參一電第八〇九號

(一)船團ノ編成運航ノ計畫及現況陸海軍護衛力特ニ電磁波兵器裝備等ノ之ト力ヲ把握シテ各擔任ニ從ヒ豫定任務履行對策ヲ講ジ或ハ協同施策シ

(二)一般防衛(航空)所定ノ見地ヨリ船舶部隊及海軍ノ代艦特ニ在港

通四一七九 呂二日一四三七二五(十通)

海軍

492

船舶等ノ海運地施設ノ分散秘匿ヲ検討スル等其ノ缺陥

自尙資料蒐集對策徹底ニ遺憾アリ或ルベク夜間船舶開港場ヲ強行具現

スルニ努ム(初期訓練)

前項要旨ニ基キ陸海航空護衛ノ現場指導ヲ爲シ特ニ各局地關係部

隊相互ノ通信連絡ノ強化竝ニ案審ヲ圖ル

船舶ノ損傷故障狀況及之ヲ整備力給水給炭等船舶補給施設ノ船舶

帶船及ボス影響ト之ヲ打開方策

(註再送ノ爲運延)

(電報略註)本電二三既配布

第壹十信課

海軍

親展

作

暗號軍極秘

昭和二十三年八月二十二日

陸軍省

第三六二一

作

海軍省

〇八〇八五五番

第四

南國方面

第二國

左記

セレ

リ

通四四八三 呂三日 一八三六七五四 三二一

海軍

電信課 第十課

473



ン設制ヲ以テ艦中最高位トシ艦長ニシテ艦長  
 手続三五番艦長ノアソシエシテ艦長ニ任リ在リ  
 艦中最高位トシ艦長ノ一員ヲ第四番艦長ニ編入  
 艦中最高位トシ艦長ノ一員ヲ第四番艦長ニ編入  
 艦中最高位トシ艦長ノ一員ヲ第四番艦長ニ編入

4R下巻  
 「同ノ面」

第十信  
 隊

海軍

局長一課長

局長	一課長
第一課	第二課
第三課	第四課
第五課	第六課
第七課	第八課
第九課	第十課
第十一課	第十二課
第十三課	第十四課
第十五課	第十六課
第十七課	第十八課
第十九課	第二十課

緊急

八月 開始 〇〇三三〇〇

時丁〇〇五七 風〇三七九八

作



● 第四南道建設課

● 大港第一部・聯合建設課、第二南道建設課

時號洋極秘

機密第〇八三一四二番電

發 南西方面建設參謀長

書機密第〇八〇八五五番電返

第一項第二項共ニ實施セラレ候支ナシ。

474

通四六一九

呂一B八八八四四一廿一通放

海

軍

第十信課

人

# 親展

八一〇

開始一七〇〇

了二八一〇 電〇四三九三

作

● 六二五三六各航戰A

● 聯合艦隊司令部・四隊隊口・三〇根A

● 八才番二航艦基盤

機密

機密第一〇一〇四五番電

發 七六一空司令

H二AB電令作第一一號關聯

一式陸攻三機(單機行動) HDBIREFSIRM 行動線定左ノ通り

八月十一日〇五〇〇MDD 發十一日一六〇〇REFB 離八月十一日

二三〇〇PDB 發十二日〇九三〇MDD 離

三便乘者(七二名) 順序(1)天山月光發乘員(2)天山月光發備員

通五三六五 月二日(一五七一〇) 三二通

海軍

第拾信課

495

海軍

海軍總務處出願六時開前より開港迄毎時  
同通信(1)電波六九一〇(2)暗號書多四四(3)呼出符號ト四レ一六

第十信課

海軍

人事

親展扱



暗號

工	勇	石	川	山	田	林	森	野	村
K	I	O	H	E	A	N	S	H	I
勇	石	川	山	田	林	森	野	村	林

第十信課

大正十一年三月三日

第一〇一七二二番

大正十一年三月三日

大正十一年三月三日

第三八

大正十一年三月三日

第五回

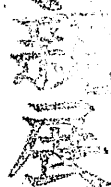
大正十一年三月三日

軍

496

人

至  
八  
二



受領  
〇〇三三〇〇

了  
〇八〇〇 電  
〇五五四〇

本  
作

第十  
條



東京通信隊・一〇通信隊・二一通信隊

三十一通信隊

海軍第一〇三二五三番電 二分ノ三

發 總務課長 威参一覽第八五〇號

對空對海警戒ニ任シ前送來適切ナル突入作戦ヲ實施ス此ノ場合ニ於

テモ敵機動部隊ノ狀況ニ依リテハ對空對海警戒ヲ第一トシテ計畫ス

三前各機動部隊ニ方リテハ通信連絡ノ統一並ニ索敵ヲ圖リ時ニ通信防

障ニ留意スルト共ニ計畫及實施狀況ハ速時報告スルモノトス

一 通信班一區一司。三點可昭南指令所一區參考次第。官。定。治。

通五六四九

呂一〇一八八八四號一三十一通放

海軍

497

護。第二南遣艦隊 第一南遣艦隊 南西方面艦隊 三船司。真。

一駐 本艦隊合々ノ爲艦艇一

一艦艇隊駐 本艦二分ノ一未着

約十餘眾

海軍

人

作親展  
八十一  
親展

親展 〇八五〇

〇一〇〇〇 〇四七三九

〇六才第一

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

二六

一〇〇〇〇〇〇〇〇

一〇〇〇〇〇〇〇〇

一〇〇〇〇〇〇〇〇

五七一四 三三三三三三三三三三 海軍

第十信課

478



長	無	長	
A		K	
B		C	
E		H	
J		G	
F		D	

至急 親展

作

暗號 極秘

第一、...  
 第二、...  
 第三、...  
 第四、...  
 第五、...  
 第六、...  
 第七、...  
 第八、...  
 第九、...  
 第十、...

4件 白「東」

海軍

第十倍

479

0723

○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○

至急  
八二一  
受信  
開始  
一四〇八〇  
一四三〇  
電〇四七七

東京通信隊

東京通信隊

機密第一一二三八番電

宛

人事局長

通報

軍務局長

大海參一部長

南西方面(特ニ菲島濠北)ノ緊急戰備強化ノ要最モ大ナル現在當方面ノ事情ニ精通セル幕僚ノ轉出(例ヘバ田中(二三三五)ノ交代ノ如シ)ハ之ヲ行ハレザル様取計ハレ度。註一本電發信者ナシ

GKF  
八月五日附

通五八〇五  
留〇(一四九三〇K)(三十一通)  
海軍

人事局長

第十信

1180







人

八

一三 受信〇三三五〇

開丁一〇三〇

電報電 〇〇〇〇 五五五五 五五五五 八八八七 七八九一

作保・參本

# 親展

● 東 通・一海上國衛隊

## 隔號軍極秘

發審第一二二一六〇〇香電

四分ノ二三三四

發 總司令 局長 通電先 大長御參考台軍司令部、海上國衛總司令部、第一海上國衛隊、同(昭南)兵三船司

軍需資材及戰備輸送ノ實施ヲ確實迅速ナラシムル爲東航路ノ特別措置  
及運航法ノ改變ニ關シ左記諸件ノ具現方御配慮ヲ得度  
一 台灣東岸接航路ヲ設定基隆並ニ高雄奇港ヲ要スル船舶ノミ基隆又ハ  
台灣南部嶺鼻頭附近ニ於テ分離他ハ東岸接航路ヲ直行但シ左記諸急

通六六五八・六五三四・六五四一・六五八二 呂一日(七四六五)三十通 草(一)

183

接置ヲ要ス

(一) 恆春並ニ彌鼻附近ニ特別義地隊ヲ配備シ臺灣東岸接航路ノ指揮  
及掩護(一部給糧水)ニ任ゼシメ(臺灣東・西航路共接岸航路ヲ  
採用セバ現兵力ノ運用ニ依リ即決可能ト判斷ス)

(二) 別ニ臺灣東・臺灣港・花蓮港等ニ對潛水艇掃蕩隊又ハ陸軍隊ヲ配  
備セバ掩護ハ更ニ強化スベシ

(三) 軍ハ所要ニ應ジ「バタン」島「バシー」海峡「パスコ」附近ニ  
海上交通確保ノ爲一部航空部隊ノ配備ヲ準備中ナリ

(四) 前項航路並ニ「バリタン」及「バシー」航路帶ヲ確立經次補備強  
化運行及護衛ヲ張力ニ統一セバ内地及南方國間輸ニ台灣東航路ハ航  
ノ執拗ナク航路ニ對シ交通確保ヲ期シ得ルモノト信ス

四 細部進路圖類ス

其御參考(五月乃至七月間マニテ經由内經船四數一二)

海軍

第十信

(一) 物資搭載ノ必要ナク第一項台灣東岸接航路ニ分艦直航セシム得ル  
 モノ約五〇% (但シ一部給糧水ノ要アリ)

(二) 物資搭載給糧水ト共ニ必要ナク直ニ台灣東岸接航路ニ分艦シ得ル  
 モノハ約二〇%

第三項 固定航路帯ノ強化ニ依リ現在無理ナ大艦團編成ハ緩和スルコトヲ  
 得ス。

〔東亞駐 艦更替使用課ノタメ編隊編延〕

海軍



局長

課長

主任

係長

係長

係長

係長

係長

係長

係長

第十號

八一三 受領 一四三一 歸丁 一六一〇  
開始 一五四〇 〇五七〇三 作 職 加政

聯合艦隊司令部・三隈隊司令部・二號隊司令部・第一機動隊司令部

司令部第一隊・大海軍力補給部・算務局・佐領・佐世保工廠

機密第一二二八三〇番地

發 標名 艦長

本艦八月十二日贈公試施行セシ處左舷内軸張出軸承ノ應急修理ニ起因  
船體各部ニ振動増加セシモ之ガ對策ナキニ付此ノ儘ニテ出撃スルコト  
ニ決セリ

出シ得ル最大速力約二八節振動最大ノ速力二三節附近尙換能裝置ノ一  
部更ニ修理ヲ要ス人員物件絡繰ノ上八月十五日R.A.O出撃八月  
二十一日R.A.O着場落ノ上R.A.Oニ出撃ノ後定

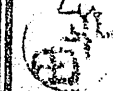
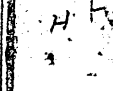
通六八一〇 呂一四四一五十二 B 佐世保海軍

484

1820

第一課長

局長



本文中の致  
は仰致し  
たし  
たし  
たし

第十信課

一三三〇  
一三三〇  
一三三〇  
一三三〇  
一三三〇



夫

一三三〇

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

海軍

軍

485

人事

0732

八一三  
〇九三〇  
〇九三〇  
〇一〇〇三  
〇五五七〇  
作 區

親展扱

傍

水雷隊

機密第一三〇八二七番

登 〇 P 参謀

軍令部機密第一二二二五二番  
八月十日附機手紙十一水雷隊  
隊ニ編入セラル

第六七一五 〇一〇一〇

海軍

486

第百十部

07833



評長	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○

至急  
親展

作

暗號軍極秘

人 一四  
 受領 〇〇七五二  
 開始 〇九〇〇  
 了 〇九三〇  
 電 〇五九七四

第二  
 夕ハ才航空基地

- 一 航空隊口・六一隊員△・二二隊員△・二六隊員△
- 聯合隊員口・四隊員口・サンボマンが航空基地

機密第一三一四二六番電

七六一空司令

七六一空隊攻二機一三一五機口二△B電令作第一一號ニ依ル任務

完了

487

通七一二九 馬二日一七八五五(三十二通)

海軍

第十信課

人

# 親屬緊急

八 一三 陸軍一七四五

陸軍一八一〇 陸軍一七五

陸

- 第一海上陸軍部
- 海上陸軍部

陸軍一三三三〇番

陸軍方面

日軍方面 陸軍一三三三〇番 陸軍一三三三〇番 陸軍一三三三〇番

計畫準備上必要三付同電二對之至急返答得度

赤坂

陸軍十部

488

陸軍一三三三〇番

海軍

0735

祝展急



八 一三 受 始 一六三五 丁 二二五〇 〇五八一四 作・航本

● 南西方面艦隊

● 航空本部・第一航空艦隊

暗號軍極秘

機密第一三一五二三番電

發 G F 参謀長

ペリリュ一航空基地機密第一二一〇一三番電 關 聯

魚雷並ニ第二十一魚雷艇整班ノバラオ非島間輸送ニ關シテハ適宜ノ

艦船ヲ利用速ニ之ガ輸送ヲ完了スルガ如ク取計ハレ度。

通六八五四 呂二日一 B (G F) 海軍

489

第十...

局長 課長 局長

福地 青井 三勇 堀水 福地

第十回

親展

八

一四三

三三四一〇〇〇

丁〇八〇〇

〇五九七〇

天國

一合 軍務 人事

東京通債隊

電話掛號 東京第一三二〇〇二番

第三直進隊隊長

宛 統制本部總務部長 人事局長

第二南進隊隊長 第六一七三九番

九七式輸送艇八八月三日任命任務執行出動直前全隊乘員中村一幸

一六一九一(三)號少出動多拒... 依り抗命罪... 取調中

鹿川口海軍上等飛行兵曹一號... 第一五六五號... 第一等整備

兵曹一吳志雄第一四三九號... 以外八不超... 本事件越二後

通七〇三〇 四三〇五十三(六一三三五七)三二一

海

軍

490

4.360

海軍省  
海軍大臣  
海軍省  
海軍大臣

ノ經年二種ノ本港駐落乘員ハ此ノ際全部日本海軍ノノ長官長官  
二名ノ財三名ノ海軍ノ上之方代員並船長等ノ二ノ御取計相成候

第十卷  
第十號

海軍